

外国人と共に学び、共に暮らす

TOMONI-ともに-

滋賀県地域日本語教育推進事業ニュースレター

2025年度 Vol.2

滋賀県では外国人県民が地域社会で孤立することなく、安心して暮らせるよう、様々な地域日本語教育推進の取り組みを行っています。今年度もニュースレター「TOMONI～ともに～」で、様々な「日本語教育推進」の情報を発信します。

地域日本語教育の動向と、今後の在り方 ～自治体の取組と、ボランティアによる教室を中心に～

地域の日本語教室は、従来、ボランティアの善意と熱意によって支えられてきました。そうした中、近年では自治体の主体的な動きも徐々に広がり始めています。

背景にあるのは少子高齢化に伴う労働力不足で、介護をはじめ様々な分野で深刻な課題です。政府は解決策の一つとして、特定技能制度や育成就労制度の創設など外国人材の受け入れを拡大しています。特定技能2号になると家族帯同が可能なため、配偶者や子どもの増加も見込まれます。そのため、政府は日本人と外国人が互いに尊重し、安全・安心に暮らせる多文化共生社会の実現を掲げています。そして、「日本語教育の推進に関する法律」（2019年）により、国との役割分担のもと、施策の実施が地方公共団体の責務となりました。現在、滋賀県を含め多くの都道府県が国庫補助を活用し「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」に取り組んでいます。目的は、同法に基づき、希望する外国人への日本語学習機会を最大限確保することと、日本語教育の側面から共生社会作り資することです。

県内を見てみると、2024年末時点の外国人人口41,475人に対し、日本語学習者数は2,041人（文部科学省調査）で4.9%でした。自学者や学習不要な場合を考慮しても、学習機会にアクセスできない人の多さが推測されます。したがって、市町では外国人住民の学習ニーズの把握と教室整備、県域ではオンライン学習の普及が急務と言えます。実施にあたっては、一定規模のクラスで教育の質を保てる日本語教師の確保も不可欠です。自治体には、言語保障の観点から地域日本語教育に取り組むことが求められています。

同時に、県内にはボランティアベースの多くの日本語教室があります。外国人にとって個々の必要性に沿った活動が行われ、学習のみならず、情報が得られたり人間関係が広がったりする他、居場所にもなっています。さらに、外国人

と日本人が住民同士として交流し対話できることから、教室は多文化共生社会づくりに向けた大切な基盤と言えるでしょう。

こうした双方の特長を活かし、自治体と民間がパートナーとして相互補完的に連携できると、域内の実践は、より豊かになると考えます。他県の例に、多くのボランティアにとって負担が大きいとされる入門期や初期日本語教育を自治体が担い、その後、地域のボランティアによる教室に繋げる報告があります。また、日頃の活動の中でボランティアが気づいた子育て関連の日本語学習ニーズを、行政で具体化した事例なども示唆に富みます。

体制づくり推進事業は始まったばかりです。自治体と民間の取組の連携、さらには外国人雇用企業をはじめ多様な人や組織と協働の輪を広げることで、地域日本語教育を充実させ、誰にとっても住みやすい社会を作っていくことが期待されます。



遠藤 知佐

大阪大学・立命館大学 非常勤講師
前 公益財団法人兵庫県国際交流協会 日本語教育指導員
前「兵庫県地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」総括コーディネーター
【専門分野】地域の日本語教育、ボランティア・日本語教師の育成、留学生教育

日本語教室の活動紹介

草津市 日本語教室「オリーブ」

オリーブについて

1994年、草津のまちに日系南米人を多く見かけるようになった頃「彼らが困っていることはないだろうか、何か手助けしたい」という真面目な動機と「南米のことを知りたいな、友達になりたいな」という興味津々の動機でボランティアを募り設立したのが日本語教室「オリーブ」です。

日本語を教えることを活動の主軸にしながらも、設立当初から並行して異文化理解講座を開催したり、外国料理教室を開いたり、パーティーをしたりと、外国の人には日本を知ってもらい、日本人には異文化を知ってもらう仕掛けをいろいろ考えてきました。お互いを知ってその上で、みんなで楽しむのがいいよね、というのが根幹にあります。そうやって活動を続けてもう30年以上になりますが、今でもオリーブはイベントがいろいろあって楽しいと学習者の人から評価を受けています。



秋の遠足



教室の様子

日本語教室は毎週土曜日の午後7時から休憩を挟んで8時40分まで。30年前活動を開始したときのターゲットの南米人たちは土曜日にも働く人が多かったので、教室は土曜日の夜に設定しました。

設立当初は学習者の95%以上がブラジル人でした。日本の社会、政治状況の変化に伴ってブラジル人が姿を消し、中国人実習生が増えたかと思うと、実習生の国籍がマレーシア、インドネシア、ベトナムなど東南アジアに変わっていき、最近は身分が実習生からエンジニアや特定技能に変わり、今また定住者の日系ブラジル人が増えています。いろいろ変遷はあれど、オリーブは30年変わらず働く外国人を支援していると言っていると思います。

これからもオリーブが学習者たちにも、ボランティアたちにも居心地のいい居場所であり続けられるように、気負わず楽しく、でも責任感を持って活動を続けたいと思っています。

(オリーブ代表 恩地 美和)

草津市 日本語教室「オリーブ」
開催場所：キラリエ草津 開催日時：土曜 19:00～21:00
(授業は20:40まで)

◎ご存じですか? 『くらしの日本語 in しが』

『くらしの日本語inしが』は、滋賀県の外国人県民の方々が日本語を勉強する際、学習や毎日の生活に生かしてほしいことを中心に作成しました。日本語教室では副教材としてご利用いただけます。第1部が「日本語を学ぶ」、第2部が「日本で暮らす」、第3部が「滋賀県を知る」となっています。滋賀県ホームページからPDFデータをダウンロードし、日本語学習教材として、ご自由にお使いいただけます。

指導者向けの使い方マニュアルと各国語翻訳版[※]も掲載していますので、ぜひご活用ください。

[※]英語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、中国語、韓国語版

掲載先 滋賀県ホームページ

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/kokusai/319833.html>



◀ 第1部
「日本語を学ぶ」より

(一社)甲賀市国際交流協会 日本語教室

現在、(一社)甲賀市国際交流協会では2つの日本語教室を実施しています。

にんじゃ日本語教室

私たちににんじゃ日本語教室は、日本語を学びたい外国人住民への日本語学習支援と日本語学習を通じた交流活動を行っています。レベル別にクラス分けを行い、様々な日本語学習のテキストを活用しながら学習を進めています。皆さんの前向きに取り組む姿勢や、日本語学習によって、生活や地域の情報などが理解できるようになっている姿を見ることが、私たちボランティアのやりがいにもつながっています。

また、この教室では、教室に参加してくれている外国人住民の皆さんの活躍できる場づくりを意識しています。学習者さんの中には、地域防災リーダーに任命された方もいらっしゃいます！また、教室最終日の交流イベントでは、学習者がイベント進行をしてくれることもあります。

国際交流協会で活動させていただいているということもあり、活動も広く認知され、学習希望者も増えています！日本語学習を支援するボランティアに興味のある方は、ぜひ、わたしたちの活動を見学に来てくださいね！

日本語教室「虹」

昼間に勉強したいという声に応え、2013年にスタッフ3人で昼教室「虹」を立ち上げました。そのうち、就職、シフト勤務、交代勤務、夜勤、子ども連れなど、いろいろな申し入れがあり、2018年ごろから徐々に個別教室を始めました。

月曜昼教室は前後期各12回、個別教室は学習者のニーズにあわせて柔軟に1年を通して開催しています。また年2回交流会をし、ゲームや日本文化体験をして楽しみます。教室中だけではなかなか和気あいあいとしたふれあいができないので、いい機会になっています。

「虹」のボランティアはミーティングと学習会に参加することを必須とし、指導スキルが身につくように努力しています。学習希望者があればいつからでも可能な限り受け入れして学習が早く始められるようにしています。

(甲賀市 にんじゃ日本語教室・日本語教室「虹」)



甲賀市「kis にんじゃ日本語教室」
開催場所：みなくるプラザ
開催日時：土曜19:30~21:10
甲賀市「kis 日本語教室『虹』」
開催場所：まる一む、みなくるプラザ
開催日時：月曜14:00~15:30



滋賀県地域日本語教育推進事業ニュースレター「TOMONI-ともに-」に対する、みなさまのご感想を募集しております。良かった記事、もっと詳しく知りたい情報、外国人の方からのご意見など、どんなことでも結構です。下記までみなさまのお声をお寄せください。

滋賀県地域日本語教育推進事業事務局 (一財)滋賀YMCA nihongo@shigaymca.org

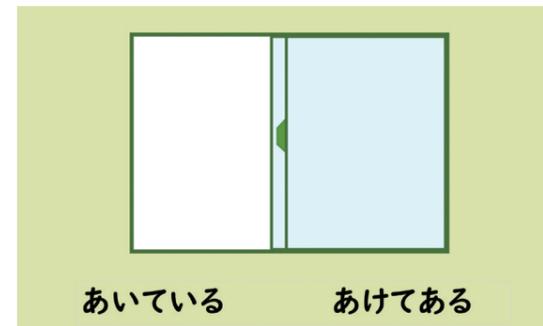


滋賀県主催 「令和7年度日本語学習支援者セミナー スキルアップ編」を開催

地域の日本語教育を担う、日本語学習支援者の皆様のスキルアップのためのセミナーを3回にわたって実施。その1回目をご紹介します。

「～ている」と「～てある」の使い分け

スキルアップ編の第1回目として、日本語学習者にとって使い分けが難しい「～ている」と「～てある」を取り上げました。



実際に絵のような状態を見たとき「あっ、窓が開いている」と言った人が、他の人から「開けてあるんですよ」と言われて、一つの場面なのになぜ違う言い方で表すのが分からなかったことを聞きました。実際に同じような印象を持っている日本語学習者が多いのも事実です。目に映った状態を「窓が開いている」という表現と、部屋の空気を入れ替えたいからとか何かの意図をもって「窓が開けてある」との違いです。



第2回セミナーの様子

日本語学習者の立場からすれば、説明を聞けばわかるけれど、使い分けられる自信がないというのが本音のようです。特に母国語でも「開く・開ける」のような動詞の違い(自動詞と他動詞)を意識したことがないことが考えられます。そもそも動詞の形そのものに違いがなく、使い方で区別している場合などは難しいようです。今回は日本語学習歴も長い中国出身の陳さんをゲストにお迎えして、学習者の立場からご自身の経験談を語っていただく時間を設けました。参加者の皆様から多くの質問をいただき、陳さんはそれにわかりやすい日本語で丁寧に答えてくださいました。会場の笑いを誘う場面もあり、皆様からは学習者の気持ちを知ることができた、多くの気づきがあったとの感想をいただきました。我々にとっても貴重な学びの時間となりました。



ゲスト 中国出身の陳さん

使い分けられる練習を優先する

<食べ物を見て>

- ・何が入っていますか
- ・何がのっていますか
- ・何がかかっていますか
- ・どこで売っていますか

<プラグ・ケーブルの確認>

- ・ささっていますか
- ・つながっていますか

<案内や証明書を見て>

- ・何と書いてありますか
(何て書いてあるんですか)
- ・どこに書いてありますか
- ・どこに置いてありますか

<プラグ・ケーブルの確認>

- ・さしてありますか
- ・つないでありますか

第1回目のテーマとして取り上げた「～ている」と「～てある」ですが、同じ状態を両方で表せる場合はさほど多くないのが現状です。違いがわかることも大切ですが、それを使いこなせる段階まで押し上げるにはさらなる練習や刺激が求められます。そこで提案ですが、あえてこの違いに注目して強調するより、それぞれの表現が日常生活の中でどのように使われているのかを紹介し、それらを使い分けられる練習を優先してはどうか。

(主任地域日本語教育コーディネーター 片平 協子)



第3回セミナーの様子

